

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成 19 年 6 月 21 日 (2007.6.21)

【公表番号】特表 2002-541999(P2002-541999A)

【公表日】平成 14 年 12 月 10 日 (2002.12.10)

【出願番号】特願 2000-613596(P2000-613596)

【国際特許分類】

A 6 2 C 3/06 (2006.01)

B 2 2 D 21/04 (2006.01)

C 2 2 B 26/22 (2006.01)

【F I】

A 6 2 C 3/06 C

B 2 2 D 21/04 B

C 2 2 B 26/22

【手続補正書】

【提出日】平成 19 年 4 月 16 日 (2007.4.16)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 含有量が 1 体積 % 未満のフッ素含有抑制剤とキャリアガスとを含んでいる、熔融マグネシウム / マグネシウム合金を保護するカバーガス組成物であって、その組成物の各成分は 5 0 0 0 未満の地球温暖化潜在力 (GWP) (1 0 0 年の期間で二酸化炭素の絶対的な地球温暖化潜在力を基準にしている) を有する組成物。

【請求項 2】 前記抑制剤はオゾン層破壊潜在力を持たないことを特徴とする請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 3】 前記キャリアガスは空気、二酸化炭素、アルゴン、窒素、およびそれらの混合物から成る群から選ばれることを特徴とする請求項 1 または請求項 2 に記載の組成物。

【請求項 4】 前記組成物の各成分は 3 0 0 0 未満の地球温暖化潜在力を有することを特徴とする請求項 1 乃至 3 のうちいずれか一項に記載の組成物。

【請求項 5】 前記抑制剤はハイドロフルオロカーボン、ハイドロフルオロエーテル、およびそれらの混合物から成る群から選ばれることを特徴とする請求項 1 乃至 4 のうちいずれか一項に記載の組成物。

【請求項 6】 前記抑制剤は 1 0 0 未満の沸点を有することを特徴とする請求項 1 乃至 5 のうちいずれか一項に記載の組成物。

【請求項 7】 前記抑制剤はジフルオロメタン、ペンタフルオロエタン、1, 1, 1, 2 - テトラフルオロエタン、ジフルオロエタン、ヘプタフルオロプロパン、メトキシ - ノナフルオロブタン、エトキシ - ノナフルオロブタン、デカフルオロペンタン、およびそれらの混合物から成る群から選ばれることを特徴とする請求項 1 乃至 6 のうちいずれか一項に記載の組成物。

【請求項 8】 前記組成物の各成分は 1 5 0 0 未満の地球温暖化潜在力を有することを特徴とする請求項 1 乃至 7 のうちいずれか一項に記載の組成物。

【請求項 9】 前記抑制剤は 1, 1, 1, 2 - テトラフルオロエタンであり、前記キャリアガスは乾燥空気であることを特徴とする請求項 1 乃至 8 のうちいずれか一項に記載の組成物。

【請求項 10】 前記抑制剤は 1, 1, 1, 2 - テトラフルオロエタンであり、前記キャリアガスは窒素または二酸化炭素であることを特徴とする請求項 1 乃至 8 のうちいずれか一項に記載の組成物。

【請求項 11】 体積で 0.1%未満の抑制剤を含有していることを特徴とする請求項 1 乃至 10 のうちいずれか一項に記載の組成物。

【請求項 12】 体積で 0.1%未満の抑制剤を含有していることを特徴とする請求項 11 に記載の組成物。

【請求項 13】 溶融マグネシウム / マグネシウム合金を保護する方法であって、該方法が、前記マグネシウム / マグネシウム合金を請求項 1 乃至 12 のいずれか一項に記載のカバーガス組成物で覆う工程を含むことを特徴とする方法。

【請求項 14】 請求項 1 乃至 12 のうちいずれか一項に記載された抑制剤を、溶融マグネシウム / マグネシウム合金の酸化を防止または最小にするために使用すること。